

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会

障害者支援施設 阿蘇くんわの里

多機能型事業所 阿蘇くんわの里

目次

1. はじめに	・・・・・・・・・・	1
2. 全体状況報告	・・・・・・・・・・	1
3. 利用者状況	・・・・・・・・・・	1
4. 職員の状況		
(1) 職員研修状況	・・・・・・・・・・	2
(2) 職員会議等の開催	・・・・・・・・・・	2
(3) 職員資格習得状況	・・・・・・・・・・	2
5. 個別事業報告		
(1) 障害者支援施設 阿蘇くんわの里	・・・・・・・・・・	2
(2) 多機能型事業所 阿蘇くんわの里	・・・・・・・・	2～3
(3) 医務部門	・・・・・・・・・・	4
(4) 給食部門	・・・・・・・・・・	4
(5) 防災・防火訓練報告	・・・・・・・・・・	5

1. はじめに

阿蘇くんわの里においては、昨年度に引き続き新型コロナウイルスによる作業の受注の減少及び緊急に作業を停止するなど余儀なくされ、売上や作業の確保共に大きく影響を受けた上に物価の高騰により、経費が増加しつつあり、運営を圧迫する可能性が考えられる為、工夫して少しでも経費を抑える必要がある。また、入所者の車イスやシルバーカーの増加による介助が必要な利用者の方の増加が目立ち、情報共有の為、朝礼や終礼にて利用者状況の報告を行い、他部署の職員にも意識を持つように努めた。

今後は各事業の定員を充足させる為、支援学校や相談事業所等の体験を実施し、利用者の確保に努める。収入に関してはコロナ禍の影響を大きく受け、どの事業も作業の受注が減ったことで大幅な収入減となった。後半になり少しずつ、観光客も戻り、売上は確保できつつあるが、今後は、作業量、作業種の確保が急務となっている。

2. 全体状況報告

- ・車イス対応の福祉車両（赤い羽根共同募金助成）の購入
- ・エアコン・パソコン・固定電話・消防機器・電灯等の交換（落雷により、保険対応）
- ・ボイラー室の撤去、貯水槽の解体・新設

3. 利用者状況

新型コロナの影響で体験実習がなかなかできない状態ではあったものの利用される方のニーズに合う提案を行い、できうる限り本人・家族の希望に添う事が出来るよう努めた。

(令和5年3月末時点)

	事業	定員	令和3年度 登録者数	令和4年度 登録者数	増減
日 中 事 業	生活介護事業	40	36	36	±0
	生活訓練事業	6	1	0	-1
	就労継続支援B型	34	40	40	±0
居 住	施設入所支援	40	36	38	+2
	短期入所支援	1名（併設型） 1名（空床型）	5	5	±0

4. 職員状況

(1) 職員研修状況

新型コロナウイルスの影響もあり、参加型の研修はほぼなく、オンラインや書面決議等が主であった。

研修名		主催	人数	研修形式
令和4年度サービス管理責任者実践研修	4/19	保健福祉振興財団熊本支部	1	参加
令和4年度サービス管理責任者実践研修	6/10	保健福祉振興財団熊本支部	1	参加
第2回新型コロナ感染防止対策研修会	1/14	熊本県社会福祉協議会	1	オンライン
令和3年度障害者虐待防止マネジャー研修会	1/24	社会福祉法人全国社会福祉協議会	1	オンデマンド
第2回工賃向上計画支援研修会	2/16	熊本県社会就労センター協議会	1	オンライン
令和3年度社会福祉法人法令関係研修会	2/25	熊本県社会福祉協議会	1	オンライン
第2回施設長連絡会	3/16	熊本県知的障がい者施設協会	2	参加
第2回施設長・職員研修会	3/17	熊本県社会福祉協議会	1	オンライン

(2) 職員会議等の開催

全職員に対する施設の基本方針及び重要案件の確認、連絡事項等の確認を月1回で開催を行った。その他緊急の案件については都度開催した。併せて虐待防止委員会を設置し、職員会議中に虐待についての研修会を行った。

(3) 職員資格習得状況

- ・令和4年度 社会福祉主事資格認定通信課程 2名
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 2名

5. 個別事業報告

(1) 障害者支援施設 阿蘇くんわの里

施設入所支援・生活介護事業・短期入所支援

【サービスの取組み】

今年度3月に昼食時、利用者の方が食事を喉に詰め、亡くなるという事故が起きている。緊急の会議を開き、窒息死に対しての状況の報告、対策として今から実行できることを職員全員で考え、どのような状況でも常に見守りの強化に努めると共に緊急時に対応できるように救命救急の講習を計画していく。また、誤嚥性肺炎を繰り返し患っていた利用者の方が入院加療中のところ、亡くなっている。高齢入所者のADLの低下が著しく、介助及び付き添い支援が必要な方が増加しているため、当日の勤務者同士で連携を図り、臨機応変に対応していく必要がある。利用者全般に言えることだが、運動不足が見られているため、夕方に周辺の散歩を実施、毎週金曜日に柔道整体師による柔軟体操を取り入れ、機能維持に努めた。

【課題・次年度への提起】

利用者の方が安心して日常生活を送ることができるように職員の申し送りを夜勤者含めて徹底していく必要がある。また、コロナの緩和も考えられるため、行事やイベントを計画し、実行できるよう担当を決めて行っていく。

(2) 多機能型事業所 阿蘇くんわの里

① 生活訓練

【課題・次年度への提起】

今年度の生活訓練の利用がない状態だった。今後は、支援学校や相談支援事業

所との連携を密に行い、利用者の獲得に努めていきたい。

② 就労継続支援 B 型

【サービスの取組み】

作業班全体に言えることではあるが新型コロナウイルスによりホテルの集客や観光客の減少に伴い、作業量、受注に大きく影響しており、大幅な売上減になったため、公用車の洗車や施設内の消毒、施設内の清掃を行っているが、売上減の解消はできていない。作業量が日々によって変動がある為、作業班ごとに忙しい班への利用者の応援をするなど、各班同士での連携を図れる体制づくりに努め、利用者の仕事の確保を行った。昨年の工賃が 21,067 円だったが今年度の平均工賃は、20,540 円と減ってしまったが、今年度より作業時間を 16:30 より 16:00 に変更し、送迎のある利用者との工賃の差を均一にした。

・自主生産班

年度前半は新型コロナの影響を受け、店舗・電話注文共に少なく売上に繋がらなかったが、後半になるにつれ行政の自粛緩和、クーポン等の政策があり、少しずつではあるが増加傾向にある。インバウンドの方も増えることが考えられる為、ポップに数か国語を乗せるなど観光客にアピールできるように取り組んでいく。

・下請け班

年間通してのゼリー作業は少ないが作業の合間で園内消毒や公用車の洗車・施設内の草刈り、新規で阿蘇薬草園、丸信、万彩路から不定期の単発作業ではあるが、作業確保に努めた。また、阿蘇市より赤水駅、内牧駅のトイレ清掃の役務を継続し、作業種を増やすことで利用者が急な作業にも臨機応変に対応することができ始めている。

・縫製班

タオル作業においては、数か所からの受注を受けている為、作業確保はできているが、日によって作業量の増減があり、多い場合には他の班から応援をしてもらうなど行い、効率良く作業を進めることができるように努めた。

【課題・次年度への提起】

材料費の高騰が今まで以上に考えられる為、コストや在庫を意識した材料の購入をするなど経費の削減を行う必要がある。来年度はインボイス制度も始まるため、制度に対応する請求書の作成及び馬油製品の価格の見直し等を進めていく。

(3) 医務

【サービスの取組み】

医務においては、利用者の生活に大きく関わりを持っており、食事や入浴、排せつ、睡眠等、臨機応変な支援が必要であり、早期の疾病に気付き、重症化する前に医療関係との受診調整または、予防推進に取り組んだ。

各医療機関の定期受診状況

1ヶ月毎	1・2ヶ月毎	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・菊陽病院 ・市原胃腸科外科 ・古嶋眼科 	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇やまなみ病院 ・ピネル記念病院 ・阿蘇医療センター ・安西皮膚科 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂梨ハートクリニック (3回/週) ・きずな歯科 (1回/週) ・ひまわり整骨鍼灸院 (1回/週)

『身体測定』

- ・毎月実施(身長・体重・血圧・脈拍 ※但し身長は4月 年1回)

『健康診断』

- ・定期健康診断を10月に実施 (入所者は2回目を3月に実施)

『感染対策』

- ・検温消毒の継続実施
- ・発熱者は居室にて食事、定期的な検温の実施
- ・緊急な病院受診を行う。

【課題・次年度への提起】

高齢化、障がいの重度化によるADLの極端な低下に伴い、病院受診の増加となっている。加えて緊急時の受入病院の選定を行っておく必要がある。

(4) 給食

【サービスへの取組み】

嗜好調査(アンケート)や給食会議等を実施し、結果を参考にして献立作成を行った。また、利用者の食事の様子やコミュニケーションをとる中で、利用者の意見を反映できるように取り組んだ。毎月15日工賃支給日には特別メニューの提供など満足度の向上に努めた。食事形態としては、咀嚼に応じて粥食、刻み食などの提供や、減塩食及びアレルギー対応食の提供、体調不良の利用者には別メニューの提供等の個別対応を行った。衛生面では、月一回の業者による害虫駆除及び消毒を実施、定期的な検便調査を行い、食中毒、ノロウイルス等の防止に努めた。異物混入に関しては、調理帽とネットキャップの両方の着用を徹底した。

【課題・次年度への取組み】

嗜好調査アンケートの結果、8割の利用者が給食を楽しみにされているが、2割の利用者が満足されていないことが判明した。この結果を生かして、味付け、量、調理方法を見直し、献立作成に取り組んでいきたい。また、食材価格高騰の為、スチームコンベクションの活用、だしや素材の味を生かした調理を調理員一人一人に意識してもらい、食材費及び水道光熱費の削減に努める。衛生面については外部業者に依頼を行い、定期的

な拭き取り調査の実施、利用者の状況に応じた食事の提供を心掛ける。

(5) 防災・防火訓練報告

火災訓練を(①11/11 ②2/24 ③3/14)行っている。1.2回目は夜間想定で通報及び避難訓練、3回目は実際に水消火器を使用しての消火訓練を行った。火災時の職員の動きや適切な利用者誘導及び利用者の方が安全に避難できるように経路を考えての訓練を行った。

【課題・次年度への提起】

今後は、火災訓練だけではなく、風水害を想定した訓練を行っていく。車イスの利用者や単独歩行が難しい利用者の避難を想定した訓練の実施を行っていきたい。また、救急救命の講習等を受け、緊急時に臨機応変に対応できるように人材育成に努めていきたい。